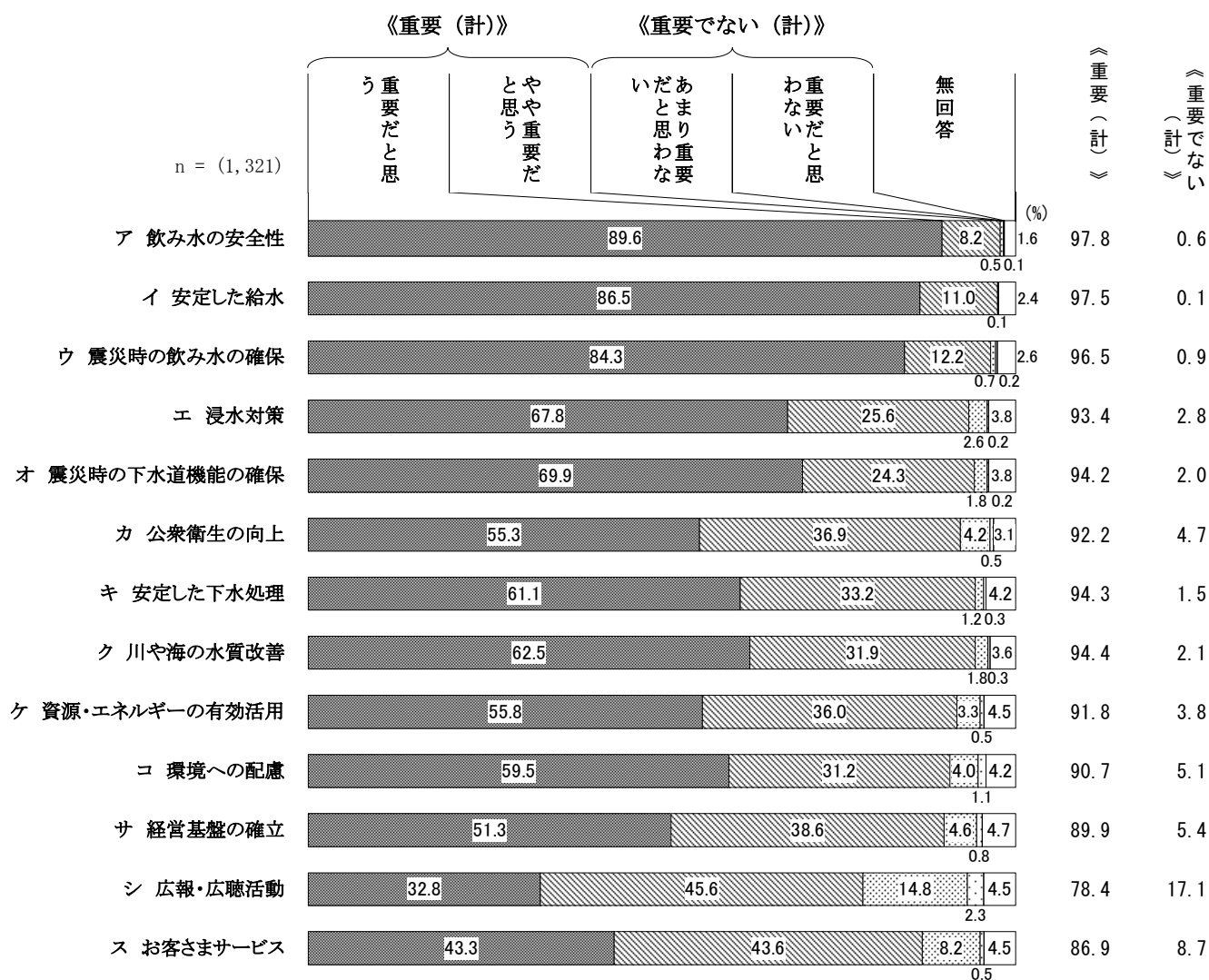


## 9. 今後の水道・下水道について

### (1) 水道・下水道事業の重要度

◇『飲み水の安全性』『安定した給水』『震災時の飲み水の確保』の重要度が高い

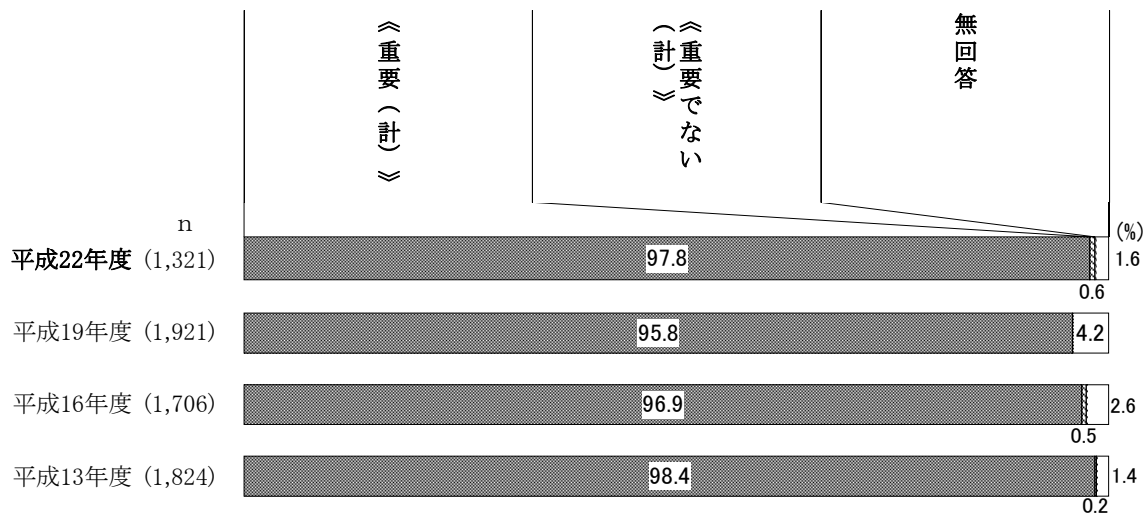
問19 あなたは、川崎市の水道・下水道の事業内容について、どの程度重要だと思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号（1～4）をお選びください。（○は各項目に1つずつ）



水道・下水道事業について、「重要だと思う」と「やや重要だと思う」を合わせた《重要 (計)》の割合は、『サ 経営基盤の確立』『シ 広報・広聴活動』『ス お客さまサービス』を除きいずれも9割以上である。より重要度の高い「重要だと思う」の割合は、『ア 飲み水の安全性』が89.6%で最も高く、以下、『イ 安定した給水』(86.5%)、『ウ 震災時の飲み水の確保』(84.3%)、『オ 震災時の下水道機能の確保』(69.9%)、『エ 浸水対策』(67.8%)、『ク 川や海の水質改善』(62.5%)の順となっている。一方、「あまり重要だと思わない」と「重要だと思わない」を合わせた《重要でない (計)》の割合は、『シ 広報・広聴活動』が17.1%と高い。

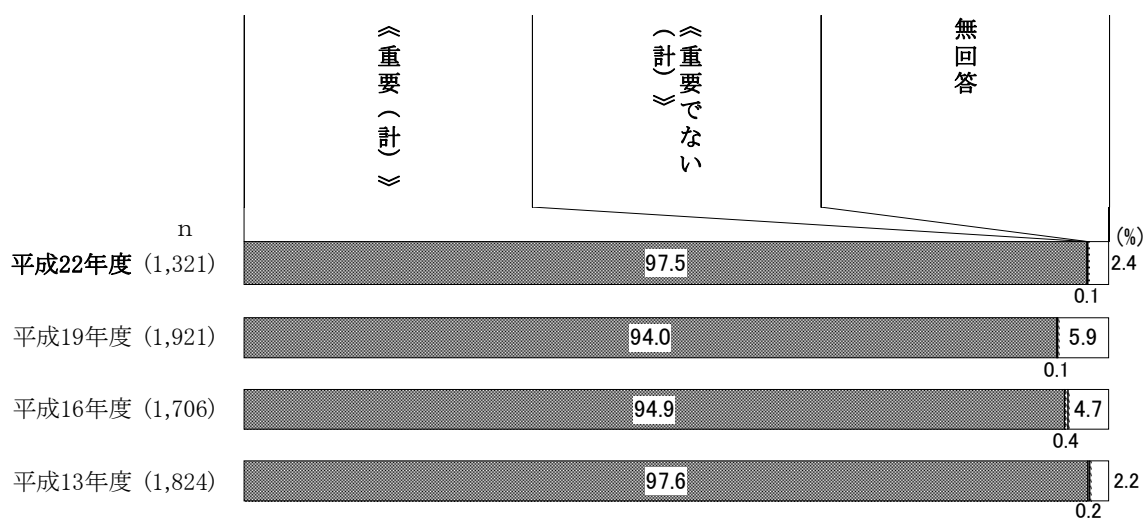
【経年比較】

ア 飲み水の安全性



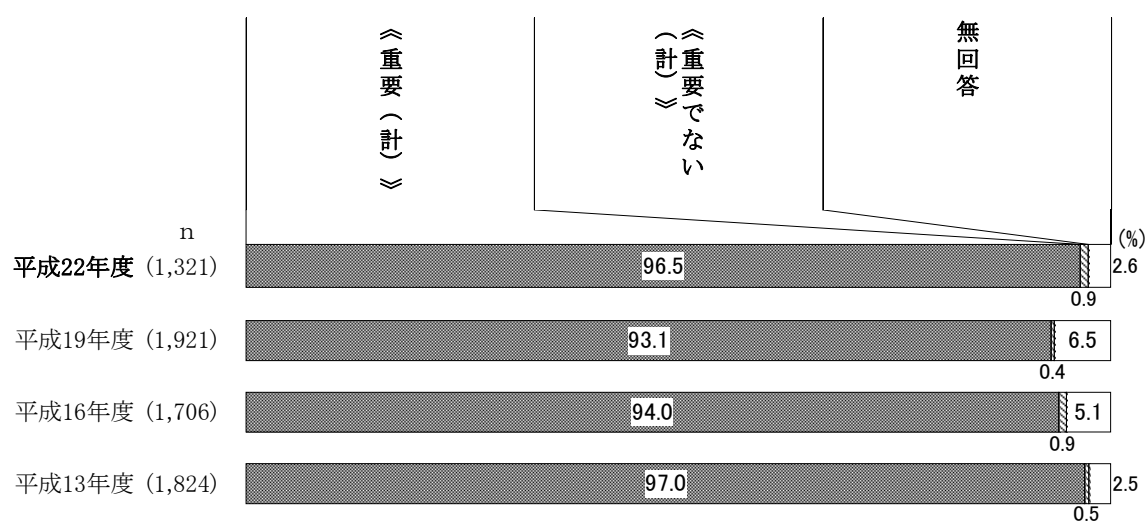
経年で比較すると、平成19年度調査に比べ《重要(計)》が2.0ポイント増加している。

イ 安定した給水



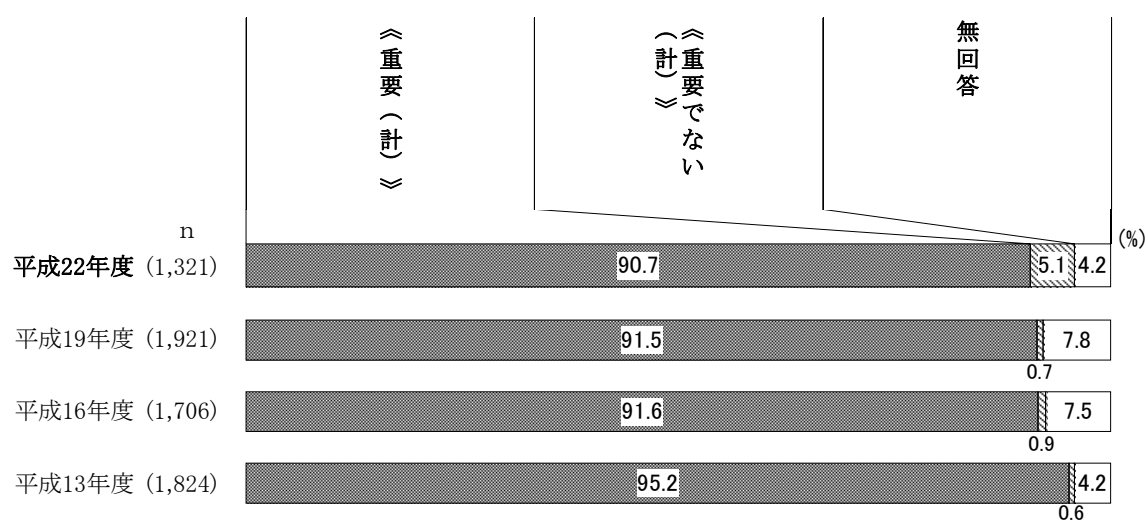
経年で比較すると、平成19年度調査に比べ《重要(計)》が3.5ポイント増加している。

ウ 震災時の飲み水の確保



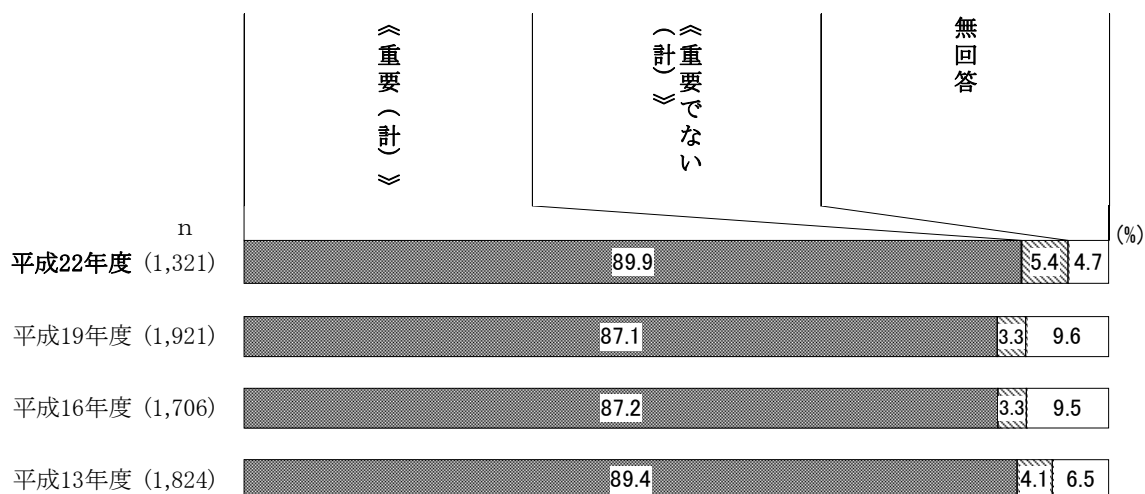
経年で比較すると、平成19年度調査に比べ《重要 (計)》が3.4ポイント増加している。

コ 環境への配慮



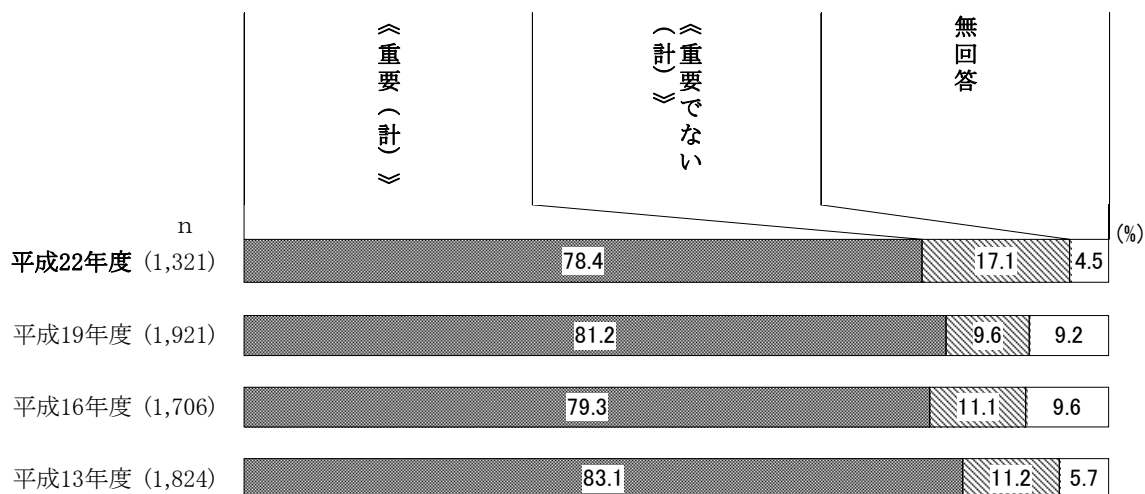
経年で比較すると、平成16年度以降、大きな差はみられない。

サ 経営基盤の確立



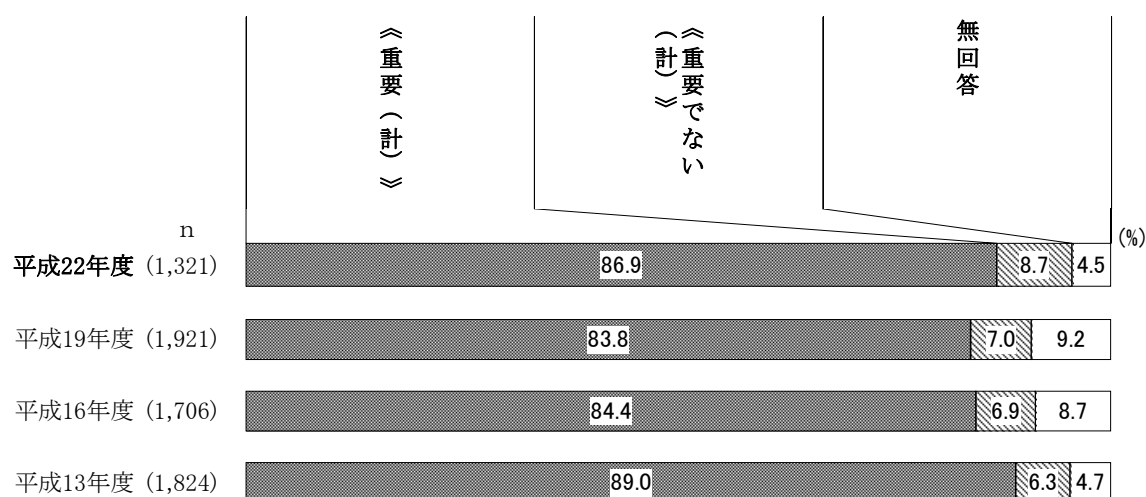
経年で比較すると、平成19年度調査に比べ《重要(計)》が2.8ポイント増加している。

シ 広報・広聴活動



経年で比較すると、平成19年度調査に比べ《重要(計)》が2.8ポイント減少している。

ス お客様サービス



経年で比較すると、平成19年度調査に比べ《重要 (計)》が3.1ポイント増加している。

○ 《重要 (計)》の順位の推移

	平成13年度	平成16年度	平成19年度	平成22年度
第1位	ア 飲み水の安全性 98.4%	ア 飲み水の安全性 96.9%	ア 飲み水の安全性 95.8%	ア 飲み水の安全性 97.8%
第2位	イ 安定した給水 97.6%	イ 安定した給水 94.9%	イ 安定した給水 94.0%	イ 安定した給水 97.5%
第3位	ウ 震災時の飲み水の確保 97.0%	ウ 震災時の飲み水の確保 94.0%	ウ 震災時の飲み水の確保 93.1%	ウ 震災時の飲み水の確保 96.5%
第4位	コ 環境への配慮 95.2%	コ 環境への配慮 91.6%	コ 環境への配慮 91.5%	コ 環境への配慮 90.7%
第5位	サ 経営基盤の確立 89.4%	サ 経営基盤の確立 87.2%	サ 経営基盤の確立 87.1%	サ 経営基盤の確立 89.9%
第6位	ス お客様サービス 89.0%	ス お客様サービス 84.4%	ス お客様サービス 83.8%	ス お客様サービス 86.9%
第7位	シ 広報・広聴活動 83.1%	シ 広報・広聴活動 79.3%	シ 広報・広聴活動 81.2%	シ 広報・広聴活動 78.4%

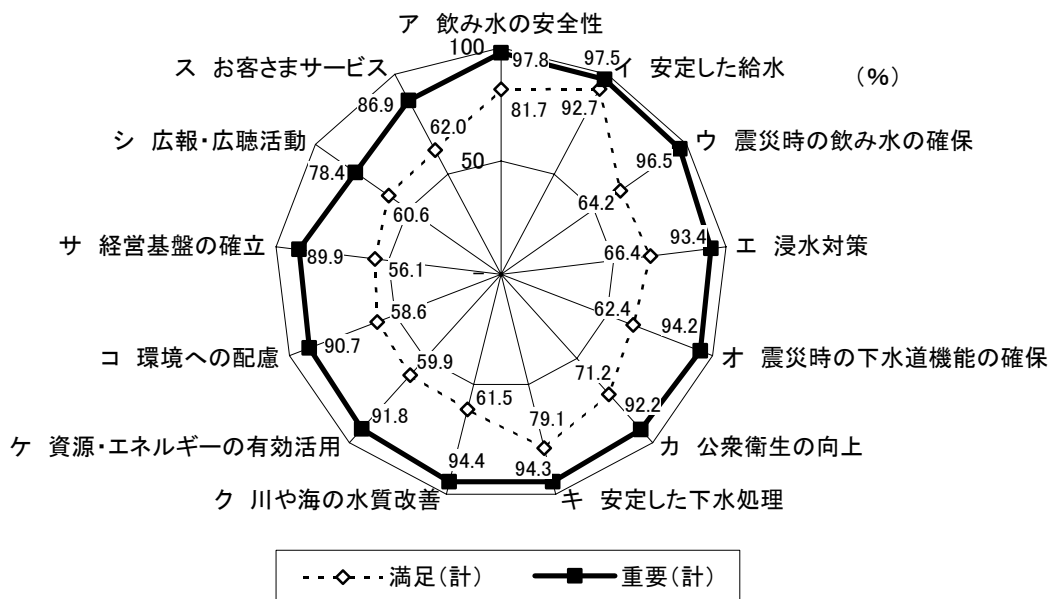
《重要 (計)》の順位は、平成13年度から変化がない。

(2) 水道・下水道事業の満足度と重要度の対比

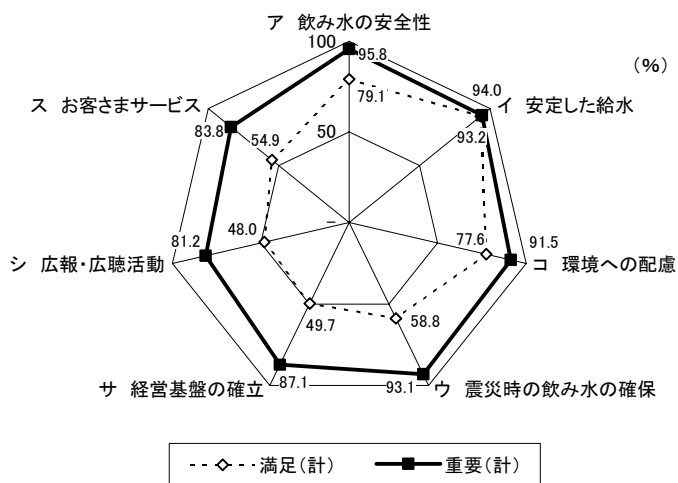
《満足(計)》と《重要(計)》を比較すると、その差が小さいのは「イ 安定した給水」の4.8ポイント、次が「ア 飲み水の安全性」の16.1ポイントとなっている。一方、開きが大きいのは、「ウ 震災時の飲み水の確保」「オ 震災時の下水道機能の確保」「ク 川や海の水質改善」「ケ 資源・エネルギーの有効活用」「コ 環境への配慮」「サ 経営基盤の確立」で30ポイント以上となっている。

【経年比較】

平成22年度



平成19年度



平成16年度

